

巻頭言



岩手県知事 達増拓也

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波から10年が経過しました。改めて犠牲になられた方々の御冥福をお祈りいたします。また、被害を受けた皆様に心からお見舞い申し上げます。

岩手県立大学におかれては、発災後は、被災地にある公立大学として、学生や教員の皆様による被災地でのボランティア活動や多くの分野にわたる復興課題研究、さらには海外の大学との復興支援交流など、様々な復興支援活動に積極的に取り組んでいただいております。これまでの復旧・復興への御尽力と御協力に深く感謝申し上げます。

岩手県では、東日本大震災津波からの復興に向けて、平成23年4月に「東日本大震災津波からの復興に向けた基本方針」を決定し、さらに、同年8月に「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指す姿とする「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定し、平成23年度から平成30年度までの8年間を復興計画期間として、着実に復旧・復興の取組を進めてきました。

また、復興計画期間終了後も、「いわて県民計画（2019～2028）」において、「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を基本目標に掲げ、県の最重要課題として復興に取り組むとともに、世界の最先端技術等が結集するILCの実現など、復興の先を見据えた新しい三陸地域の創造に向けた取組を進めています。

こうした岩手の未来を見据えた取組を着実に実現していくためには、進取の気性に富み、グローバルな視点で考え、地域に密着した行動ができる人材の育成が欠かせません。

岩手県立大学は、平成10年の開学以来、地域の各分野の産業を支える人材を輩出されてこられました。岩手県立大学には、これからも本県の「知の拠点」として、復興を進める大きな力となり、岩手の未来を切り拓き、日本、そして国際社会の未来を担う人づくりの場となることを大いに期待しています。